

平成28年度 第1回

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

議事要旨

宇治市

## 宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事要旨

<開催年月日> 平成28年9月12日(月) 14時00分～15時30分

<開催場所> 宇治市役所7階 特別会議室

### <出席者>

多田 重光	公益社団法人宇治市観光協会 専務理事兼事務局長
長谷川 節穂	宇治商工会議所 専務理事
安藤 和彦	京都文教短期大学 教授
真山 達志	同志社大学 教授
岡本 圭司	京都府山城広域振興局 局長
服部 広志	株式会社京都銀行宇治支店 支店長
西村 徹也	連合京都南山城地域協議会 事務局長
三田 真史	京都新聞社 文化観光担当部長
高田 悦子	特定非営利活動法人働きたいおんなたちのネットワーク 理事
寺川 徹	市民委員
山口 万紀	市民委員

計11名

### <事務局等>

木村 幸人	宇治市 副市長
貝 康規	政策経営部 部長
岩本 裕子	政策経営部 副部長
山田 雅彦	政策経営部行政経営課 課長
大北 浩之	政策経営部行政経営課 副課長
大園 智	政策経営部行政経営課経営推進係 係長
原田 友彦	政策経営部行政経営課経営推進係 主任

計7名

<会議次第>

1. はじめに
2. 委嘱状の交付
3. 委員自己紹介
4. 市長挨拶
5. 正副委員長の選出
6. 議事
  - ・宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略にかかる事業評価報告（案）等について
7. 閉会

<会議内容>

**1. はじめに**

事務局）失礼いたします。それでは、定刻になりましたので、会議を始めさせていただきます。本日は、皆様方には大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。それでは、本日でございますが、宇治市長から皆様方に委嘱状を交付させていただいた後、委員長及び副委員長を互選により決定いたします。その後、委員長の招集によって、引き続き宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を開催する予定としています。委員長を選出いただきますまでの間、会議の進行を努めさせていただきます、行政経営課長の山田でございます。どうぞよろしくお願い致します。

**2. 委嘱状の交付**

《山本市長より出席の委員に対し委嘱状を交付》

**3. 委員自己紹介**

事務局）それでは、新たに今回から委員になられた方もおられますので、委員の皆様一言ずつ自己紹介をお願いしたいと思います。

《出席の委員が各自、自己紹介》

**4. 市長挨拶**

事務局）それでは、会議の開催にあたりまして、山本市長よりご挨拶を申し上げます。

《山本市長 挨拶》

## 5. 正副委員長の選出

《委員長：真山委員 副委員長：長谷川委員を選出》

## 6. 議事

### ・宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略にかかる事業評価報告（案）等について

委員長）それでは、私の方から会議次第により進めさせていただきます。

これより、宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を開会いたします。

それでは、まず推進会議を担当される副市長さん、説明員として入っていただいております事務局の担当者から、自己紹介をいただければと思います。

《副市長、事務局の順に自己紹介》

委員長）ありがとうございました。

それでは、会議次第6、議事の「宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略にかかる事業評価報告（案）等について」を事務局より説明をいただきたいと思います。

《資料①②に基づき事務局から説明》

委員長）ありがとうございました。

それでは、質疑に移らせていただきますが、本会議におきましては、会議録を作成いたします。会議録は、情報公開の対象となりますので、予めご承知おきください。

事務局の説明に対し、ご意見やご質問のある方は、挙手をお願いいたします。

委員）資料2の転入・転出アンケートについて、年齢を回答する欄がありますが、20歳代は前半で就職、後半で結婚などライフスタイルの変化の大きい年代ですので、選択肢で20歳～29歳を前半と後半に分けてみたらどうでしょうか。

事務局）分けることも含めて検討したいと思います。

委員長）人生の変化が大きいところですので、検討していただければと思います。

今回は1年目ですので、評価が難しいかもしれませんが、今後の取組のアドバイスでも結構ですので何かありますでしょうか。

委員）44ページの指標で、待機児童数0人とありますが、国定義後ということであり、実際には第1、2希望に入れない方がいらっしゃると思います。0人ならOKと見えてしま

うということがありますが、人口の増加が目的ならば手厚くするべきところだと思いますし、本当の意味での0人では無いということをお伝えしたいと思います。

委員長) 市から何かありますか。

事務局) 国定義前の待機児童の方は、この4月時点でも百数十人いらっしゃるの認識しております。今後、人口減少に歯止めをかけるためには、子育て施策が重要であるということは認識しておりますので、しっかりと取り組んでいきたいと考えております。

委員) ある小学校では来年1年生が1クラスになるかもしれないという話があります。小学校の児童数を重要業績評価指標として数値化すると、どれだけの対策ができていくか分かるのではないのでしょうか。また、児童数を見ないと、人口全体では大きく減少していないと感じますが、子どもが増えているのかわからないと思いますし、どう評価するのか考えがあれば教えてください。

事務局) 小学校の児童数について、新たに指標化することで見えてくることもあると思いますので検討したいと思います。

委員) 今の時点ではそこまでは把握されてないですか。

事務局) 調べれば分かりますが、今は把握しておりません。

委員長) 児童数については、少子化の問題でもあり、教育効果からも重要な指標になると思います。

宇治市は観光に力を入れておられますので、交流人口は順調に展開していると思いますが、一方で定住人口を確保していくのは難しいところがあると思います。今後、総合戦略を実現していくために、アイデアなどあればご意見いただければと思います。

重要業績評価指標で目標値を達成したものについては、修正値の一覧が添付されていますが、新たな目標値に対するご意見などはありませんか。

委員) ふるさと応援寄附金について、平成27年度1, 403件にとどまっていると思います。特に高齢者の方にご意見を聞くと、商品に面白味が無いということを良く言われますので、商品の品目を変えればもっと増やすことができると思います。

事務局) ふるさと応援寄附金については、平成27年10月に商品を拡充した結果、件数

で1,403件、金額では約3,700万円の寄附をいただいております。近況では、京都文教大学の学生に意見を募り、平成28年4月から市内飲食店での食事券や陶芸体験など体験型の商品の拡充を実施し、商品数は78品目となりました。さらに10月からは百人一首や楽器など、これまでに無かった商品の拡充を行い、110品目となる予定ですので、件数はもとより金額についても、増加を図っていきたいと考えております。

委員) 学生ではなく、寄附する年代の方の意見を取り入れられてはどうか。

事務局) 寄附の申込時にご意見等も聞いておりますので、意見も踏まえながら検討していきたいと思います。

委員) 寄附者の年齢分布はわかりますか。

事務局) 30歳～40歳代の男性の方が多いです。ただ、商品では女性用の化粧品やスイーツなどが多く選ばれておりますので、実際には主婦の方が手続きをされているのではないかと想定されます。

委員) 商品では肉などに魅力を感じるため、宇治だけに限定すると厳しいのかもしれないね。

副市長) 総務省の通達にもありますが、無関係のものまで商品の種類を広げますと品がなくなりますので、精一杯広げてはおりますが、宇治市と無関係のものまでというのは難しいと思います。寄附件数等で、良い報告ができればと思います。

委員) 目標値修正一覧で、市内小学3年生に対し、宇治茶を使用した授業の時間数を設定しておられますが、小学校の授業時間数は上限があると思いますが、考慮したうえで修正を行っているのでしょうか。

事務局) 今回は、総合学習のなかでまだ増やすことができるということでしたので、5時間に設定しています。ただ、どこかで上限がありますので、例えば5時間であれば、それを達成し続けるというのが目標となります。

委員) 抹茶体験授業などで設定した時間数が達成できれば良いことだと思いますし、さらに、例えば地域の高齢者の方とふれ合う時間を増やすことができたり、子どもたち自身でお茶を使って何かできたらいいのではないかと思います。

委員) 評価・課題の欄は平成29年度の課題が入っていても良いのでしょうか。

事務局) 大丈夫です。

委員) 7ページの課題に、外貨両替所と免税店の拡大を加えていただけないでしょうか。

また、お茶の京都博につきましても、8ページの評価・課題の欄に加えていただきたいと思ひますし、宇治市で観光大使を選出されるということですので、そのことについてもどこかに加えていただきたいと思ひます。

事務局) それぞれにつきまして、課題に加えていく方向で検討していきたくと思ひます。

委員) インバウンドのことでお聞きしますが、現在、京都では観光客等に対し宿泊場所が少なく、民泊などの活用とともに、大津や奈良まで行って宿泊をされています。宇治市での民泊などの宿泊や、滞在型観光に関する宇治市の考えはどうお考えでしょうか。

また、源氏物語ミュージアムの入込客数が減少していますが、嵐山などにある同様の施設でも同じような状況となっておりますし、リピーター対策についても講座など、どこも同じような事業を実施されています。リピーターを増やすためには従来と違う施策が必要であると思ひますし、従来と違う施策というのは、ターゲットを変えるということだと思ひます。発想を変えてアニメやポケモンGOなどを活用することもいいのではないかとと思ひますが、リピーター対策についてどのようにお考えでしょうか。

事務局) 民泊については、宇治市内でも数件の登録があるということは把握しております。

地方創生につきましては、いろいろな施策を講じていくなかで、観光客を増やしていくということと合わせて、滞在時間の延長も重要であると感じておりますので、様々な宿泊施設について、注視はしていきたいと思ひます。

リピーター対策については、住まいを考えておられる方に対しても関係してくるものであると思ひますので、柔軟な発想によりアニメやアプリを活用した観光など、これから具体的に新たな取組として検討が必要であると感じております。

委員) 京都市内では、デベロッパーによる空き家を活用した民泊の事例がありますが、滞在人口を増やすことができるという反面、近隣とのトラブルなどが発生している現状を念頭に置いていただきたいと思ひます。

副市長) 民泊については、課題があることは認識しておりますので、課題も踏まえながら考えていきたいと思ひます。滞在型観光については、そもそも土地の問題や事業者の方々のモチベーションもあると思ひます。リピーターの確保については、魅力発信プラットフォームのなかで、アニメの話なども出てきており、いろいろな角度で

模索しておりますので、本計画にもいろいろなものを入れながら進めていきたいと思いを思います。

委員) 京都市内では、住宅街で看板のないところが民泊となっており、怖いと感じたことがあります。外国から来られる方にはブローカーが付いておられますので、そういった方との接点は持つておかなければ、日本に来る外国の方が急になくなってしまいますので、警戒しつつ進めていく必要があると思います。

委員長) 民泊に限らず観光全般に言えることですが、地元市民にいかに観光の意義を理解してもらうかが重要だと思います。

事務局) 今年度から報告書の様式を提示させていただきましたが、様式・内容についてご意見ありませんでしょうか。

委員) 項目が非常に多くなっておりますので、積極的な議論を展開するというのであれば、突っ込まれたくないというところを教えていただけたほうがアイデアを出せるのではないのでしょうか。また、具体的なアイデアを出してほしいというところがあれば教えていただいたほうが良いと思います。

事務局) 今回は1年目ということであり、5年間を見据えたなかで考えると、課題など見えにくいところがありますが、次年度以降、積み重ねるなかで課題というのは前面に出していけると思いますので、強調する形で表現できればと考えております。

委員長) 評価・課題の欄ですが、かなりの項目で実績が書かれており、評価が書かれていないと思いますので、市の立場からの評価が必要ではないでしょうか。

できましたというだけでは次の課題が見えてこないと思いますので、評価と課題の欄で、とりわけ評価書き方に工夫をしていただければと思います。書きにくいとは思いますが、今後そのような書き方になるよう努力していただければと思います。他にご発言無いようでしたら、最後に副市長からあいさつをお願いします。

## 7. 閉会

《副市長 閉会挨拶》